

戦評用紙

大会名	平成26年度山形県クラブバスケットボール選手権大会
-----	---------------------------

日時	2014年9月23日13:30～	区分	山形県バスケットボール協会
----	------------------	----	---------------

チームA				チームB
山形ベスラベナ				Yamagata Kubera
72	20	1Q	18	85
	20	2Q	20	
	13	3Q	19	
	19	4Q	28	
		延長		

【戦評】

両軍マンツーマンでスタート。Kuberaはインサイドを中心に、ベスラベナはスクリーンを使っでのノーマークで得点を狙う。ベスラベナ#39のバスケットカウントで始まり、その後ベスラベナは#43の3P、#23の速攻で8-3とする。Kuberaは#91のバスケットカウントで8-6とし、更に#91、#9の連続得点で10-10の同点となる。ベスラベナはスクリーンを使って#39の3P、Kuberaも#22の3Pで応戦し、1Qを20-18で終える。

2Qも双方マンツーマンでスタート。ベスラベナは#42のミドルシュート、Kuberaは#91のポストプレーで得点重ねる。序盤はベスラベナがリードするが、残り5分のところで、Kuberaは#22の3P、#1の連続得点で30-29と接戦に持ち込む。残り時間3分からベスラベナは得点が決められず、逆にKuberaが#9の個人技などで逆転し、31-37とする。ベスラベナも離されまいと、#21の速攻からのバスケットカウントで35-37と食らいつく。残り0秒でベスラベナは#43が得点し、前半を40-38で終える。

後半の出だしもマンツーマン。ベスラベナは#43、#42の連続得点で44-38とする。Kuberaは#9のカットインから得点するも、ベスラベナは#39の3Pで47-40とし、Kuberaがタイムアウトをとる。タイムアウト後もベスラベナ#43がカットインから得点し、49-40とするが、Kuberaは、ベテラン#33の3P、ドライブイン、更にベテラン#91のセンタープレー、リバウンドショットなどで、残り2分に再び逆転し、今度はベスラベナがタイムアウトをとる。Kuberaの#33、#91がその後も得点し、Kuberaがリードを保ち、3Qを53-57で終える。

4Qも双方マンツーマンでゲームを行い、Kuberaは、#33の得点で流れをつかむが、攻め手を欠き、ミスも目立ったためタイムアウトをとる。ベスラベナは#23の3Pで勢いを取り戻すが、Kubera#91の連続得点から56-67と更に差が広がる。残り3分30秒にベスラベナが#23の3Pからオールコートでディフェンスするも、Kuberaは着実に得点を重ねる。高さの利を生かし、終始インサイドを支配したKuberaは、若手の爆発力とベテランの経験がうまくかみ合い、チーム全員で勝利をものにした。

戦評者

鈴木 由人

戦評用紙

大会名	平成26年度山形県クラブバスケットボール選手権大会
-----	---------------------------

日時	2014年9月23日12:00～	区分	山形県バスケットボール協会
----	------------------	----	---------------

チームA				チームB
鶴岡信用金庫ハリートクラブ				八幡クラブ
78	22	1Q	6	48
	21	2Q	15	
	17	3Q	15	
	18	4Q	12	
		延長		

【戦評】

両軍マンツーマンでスタート。ハリート#12、#13の得点で4-0とし、八幡はすかさずタイムアウトをとる。タイムアウト後、八幡は#16のドライブ等で反撃するも、得点に結びつかない。逆にハリートは#10、#13の速攻でリードし、12-2と点差を広げる。中盤に八幡は、2-1-2ゾーンにディフェンスを変え、反撃のチャンスを探すが、ハリートはすばやいパスから#10のドライブ、#13の速攻などで加点し、20-4とする。ハリートの厳しいディフェンスから、ミスが続いた八幡は速攻から得点を決められ、ハリートが大きくリードし、1Qを22-6で終える。

2Qはハリートはマンツーマン、八幡は2-1-2ゾーンでスタート。八幡はパス回しからシュートの機会を探すが、うまくいかず得点に結びつかない。一方、ハリートは#5の連続速攻などで28-6と点差を広げる。中盤に八幡は#16の3Pで32-9とするが、ハリートは#11が3Pを決め、点差は縮まらない。八幡は依然としてドライブを得点に結びつけられず、一方、ハリートは#12が連続でミドルを沈め、39-13と点差は更に広がる。八幡は2Q残り1分を切ったところで#13の3P、#10リバウンドシュート、#9の3Pで追い上げ、前半を43-21で終える。

後半の出だしもハリートはマンツーマン、八幡は2-1-2ゾーンでスタート。ハリートは後半の出だしから八幡のゾーンを攻め切れず、一方、八幡は#9の3P、#10のゴール下で追い上げ、45-29と点差を縮める。ハリートにミスが目立ち、ハリートがタイムアウトをとる。八幡は速攻に持ち込むが得点に結びつかない。ハリートは落ち着きを取り戻し、#9のミドル、#6のゴール下で加点したところで今度は八幡がタイムアウトをとる。終盤にハリートのディフェンスプレッシャーが強まり、八幡が#16、#4で連続得点するも、ハリートは#6のドライブ、#10のミドルで突き放し、3Qを60-36で終える。

4Qもハリートはマンツーマン、八幡は2-1-2ゾーンでスタート。八幡はゾーンディフェンスから流れをつかもうとするが、ハリートのディフェンスプレッシャーにより、ハリートの優勢は変わらず、終始リードを保ったハリートが八幡を下した。

戦評者

高橋 利幸